東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2008 年 2 月 29 日

豚肉の禁止

親愛なるムスリムの皆様。イスラームの教えにおいて一部の食物が禁じられていることには、多くの英知と目的が含まれています。食事に関する禁止事項における最大の目的は、人の肉体的、精神的健康を守ることです。そのため、害をもたらすものは禁じられているのです。

動物由来の食物については、ほとんど全ての宗教、さらには一部の哲学の宗派までもが、何らかの規制を設けています。これらのうち一部は行き過ぎであり、一部は非常に厳しすぎる基準となっています。例えばヒンズー教の一派ブラフマンの人々、そして一部の哲学者は、動物を屠ること、それを食べることを禁じているのです。

イスラームの教えにおいては、地上の全ての恵みがアッラーから人間へのお恵みであることが明らかにされています。クルアーンでは、清らかであるもの全てが人間にとって合法であり、汚れたものがハラームとされていることが述べられています。一方で動物、特にその肉を有効に利用することにも重きがおかれています。この点において非常に限られた禁止事項、制限を設けているのです。イスラームのもたらしたこの制限は、中道を示していると同時に、人の本質やイスラーム以前の天からの教えにも適ったものとなっています。

豚肉を食べることは、クルアーンでもハディースでもハラームとされています。本来豚肉は、ユダヤ教においてもキリスト教においてもハラームです。律法では、豚肉が清らかではないものとしてその肉を食べること、その死体に触れることが禁じられています。新約聖書においては、ところどころで豚を低く評価する記述があるものの、肉を食べることについての明白な禁止は見られません。ただしこの状況は、豚肉を食べる習慣を持っていた人々へキリスト教を受け入れさせる目的で、パウルスの豚肉についての禁止事項を新約聖書から省いたこと、「人の口に入るものではなく人の口からでるものこそが穢れているのだ。」という見方を基本とすることによってこういった形が適用されるようになったことから成り立つとされています。

現在では、豚肉が人の健康と資質によくない影響を与えるということが科学的に明らかにされています。しかしこれらは、豚肉がハラームであることの真の理由ではありません。ハラームであるという決定は、この影響によって変えられることもありません。すなわち、２０世紀において発展した技術によって豚肉の害が取り除かれたとしても、ハラームであるというこの決定は覆されることはありません。なぜなら教えの命令と禁止事項には、必ず適切な解明がつけられるとしても、現在その全てが判明していると主張するのは正しくないからです。学問や経験が増すごとに、新たに教えの命令や禁止事項についてもその英知と目的がよりよく理解されるようになっていくでしょう。

豚肉に関して私たちがよく出会う質問に対しては、この知識のあかりによって答えましょう。そして最後の言葉は、全てがその英知に任せられているお方、アッラーにお譲りしましょう。「かれが創造されたものを、知らないであろうか。かれは、深奥を理解し通暁なされる。」（大権章第１４節）